

競技要項 アルペンスキー

1.競技種目

- ①10m 歩行
- ②グライド
- ③スーパーグライド
- ④初級ジャイアントスラローム (GSL)
- ⑤中級ジャイアントスラローム (GSL)
- ⑥上級ジャイアントスラローム (GSL)

2.会 場

沼尻スキー場

3.競技ルール

国際スキー連盟競技規則最新版、全日本スキー連盟競技規則最新版、公式スペシャルオリンピックス冬季スポーツルール(2010年1月改訂版)による。ただし、本大会ルール委員会によって定められた細則を優先する。

4.エントリー

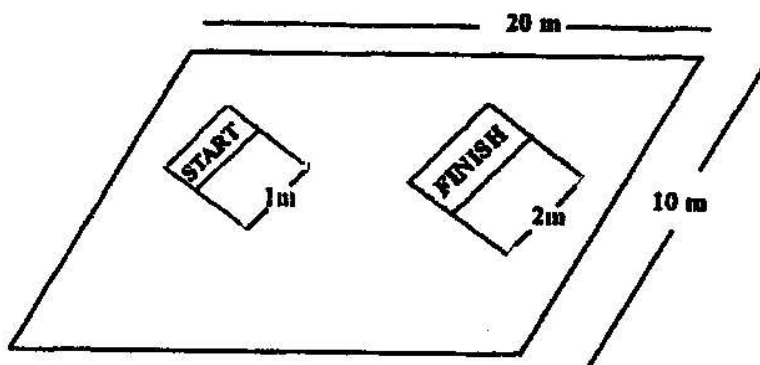
1人1種目のエントリーとする。

5.ディビジョニング及びスペシャルオリンピックス精神の遵守

アスリートとコーチは、公式スペシャルオリンピックススポーツルール(2010年1月改訂版)第1章総則セクションIをよく理解しておくこと。

6.競技方法

- 1)10m 歩行
- (1)コース図



(2)設定

- ・ 横 20m、縦 10m の平坦な場所でこの種目を設定する。
- ・ 本部と登録場所になるべく近い場所にする。
- ・ 1m 間隔で 2 本のポールを立て、その間の雪上にスタートラインを引く(色をつける)。
- ・ スタートから 10m のところに 2m 間隔で 2 本のポールを立てて、その間の雪上にフィニッシュラインを引く(色をつける)。

(3)レースの進行

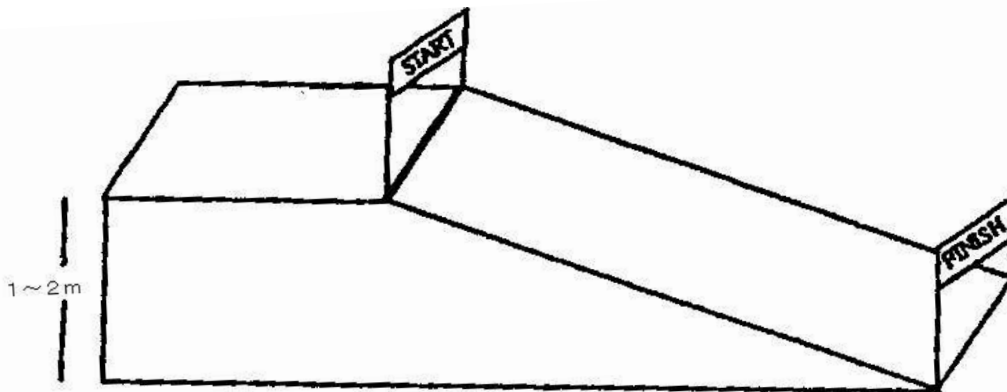
- ・ アスリートはスタート地点で両方のブーツの先端がスタートラインにくるように立つ。アスリートはスキーのストックを持っても持たなくてもよい。
- ・ アスリートは、「5、4、3、2、1、ゴー」の合図でスタートを切る。もしアスリートがうまくスタート出来ないときは、スタート審判員はアスリートが前方に動き出せるように援助してもよい。
- ・ アスリートの前足のブーツがスタートラインを横切ったら計時を始める。
- ・ アスリートはスタートからフィニッシュへ歩いて行く。
- ・ アスリートの前足のブーツがフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

(4)競技記録および順位

- ・ 予選の滑走は 1 回とする。
- ・ 決勝の滑走も 1 回とし、その記録が表彰対象となる。

2) グライド

(1)コース図



(2)設定

- ・ 斜面は本部に近い所にする。
- ・ 斜面の高さは 1~2m にする。
- ・ 斜面の長さは 10~15m にする。
- ・ 斜面はなだらかでフィニッシュ地点は平坦になるようにする。
- ・ スタート地点は平坦にし、平坦な部分が斜面にかかる点をスタートラインとする。スタートラインをはさんで 1m 間隔に 2 本のポールを立てスタートゲートとする。
- ・ フィニッシュラインをはさんで 4m 間隔に 2 本のポールを立てフィニッシュゲートとする。可能であればフィニッシュ用のバナーを使う。

(3) レースの進行

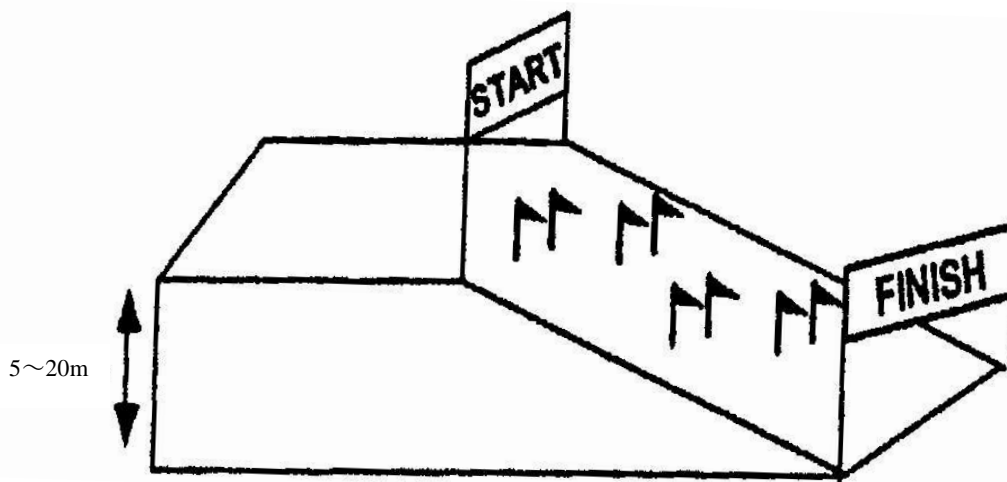
- ・ アスリートはスタート地点で両方のブーツの先端がスタートラインにくるように立つ。アスリートはスキーのストックを持っても持たなくてもよい。
- ・ アスリートは、「5、4、3、2、1、ゴー」の合図でスタートを切る。もしアスリートがうまくスタート出来ないときは、スタート審判員はアスリートが前方に動き出せるように援助してもよい。
- ・ アスリートの前足のブーツがスタートラインを横切ったら計時を始める。
- ・ アスリートはスタートからフィニッシュへ滑って行く。
- ・ アスリートの前足のブーツがフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

(4) 競技記録および順位

- ・ 予選の滑走は1回とする。
- ・ 決勝の滑走も1回とし、その記録が表彰対象となる。

3) スーパーグライド

(1) コース図



(2) 設定

- ・ 斜面は本部に近い所にする。
- ・ 斜面の高さは5~20mにする。
- ・ コースの幅は最低25mにする。
- ・ コースの長さは50~100mにする。
- ・ スロープは斜面が一定で、途中で急斜面あるいは登り斜面がないようにする。
- ・ コースはリズムカルに連続してプルークボーゲンが出来るように4~6のゲートを設定する。
- ・ スタート地点は平坦にして、平坦な場所が斜面にかかる場所にスタートラインを引くか、計時バーを設定する。
- ・ スタートラインの幅は1m以内とする。
- ・ フィニッシュ地点は少なくとも幅4mにしてアスリートが平坦な場所で止まれるようにする。

(3) レースの進行

- ・ アスリートは、「5、4、3、2、1、ゴー」の合図でスタートを切る。
- ・ アスリートの前足のブーツがスタートラインを横切るか、アスリートの足が計時バーを動かさせたときに計時を始める。
- ・ アスリートの前足のブーツがフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

(4) 競技記録および順位

- ・ 予選の滑走は1回とする。
- ・ 決勝の滑走も1回とし、その記録が表彰対象となる。

4) 初級・中級・上級 GSL (ジャイアントスラローム)

(1) 初級 GSL のコース設計

ゲートの数	高度差	コースの幅	クラス
5~15	20~70m	30m	初級者

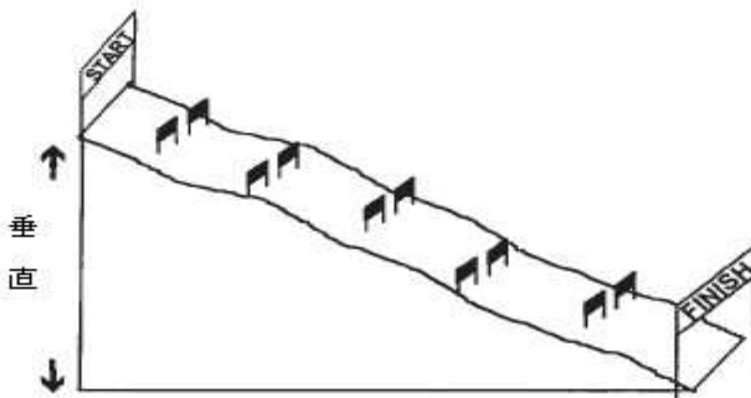
(2) 中級 GSL のコース設計

ゲートの数	高度差	コースの幅	クラス
15~30	50~150m	30m	中級者

(3) 上級 GSL のコース設計

ゲートの数	高度差	コースの幅	クラス
20~40	100~300m	30m	上級者

垂直斜面図



(4) レースの進行

- ・ アスリートは、「5、4、3、2、1、ゴー」の合図でスタートを切る。
- ・ アスリートの前足のブーツがスタートラインを横切るか、アスリートの足が計時バーを動かさせたときに計時を始める。
- ・ アスリートの前足のブーツがフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

(5) 競技記録および順位

- ・ 予選の滑走は 2 回とし、タイムの良い方を記録として採用する。
- ・ 決勝の滑走は 1 回とし、その記録が表彰対象となる。
- ・ 予選レースで 2 回とも失格となった場合は失格となり、決勝では該当ディビジョンの最後に滑る。表彰式へは他のアスリートとともに参列する。

5) 失格の判定

- ・ 転倒、ゲートの回り損ね、スキーが外れるなどして規定コースから外れ、2 分以内に規定コースに戻れない場合。
- ・ レース中に他人のあらゆる補助を受けた場合。
- ・ ルール委員会が失格と判断した場合。

6) 服装・用具

- ・ 10m 歩行・グライド・スーパーグライドと初級 GSL に出場するアスリートのスキーの長さは 100cm 以上とする。
- ・ 身体的障害に対応するために 130cm 以下のスキー(例:アウトリガー)を使用してもよい。
- ・ アスリートは、アルペンスキーのいずれの種目においても、アルペンスキー用ヘルメットを必ず着用すること。

7) その他

- ・ 各種目ともインスペクションを行う。
- ・ 指定コース内においては、必ずゼッケンを着用すること。

7. 抗議

ヘッドコーチのみ(欠席時は他の登録コーチ)、最初のリザルトの掲示後 15 分以内に、所定の用紙に必要事項を記入し抗議できる。

8. その他

- ・ 本ルールおよび競技要項に定めない事項は、その都度ルール委員会が決定する。

9. 日程

- | | |
|-------------|----------|
| 2 月 11 日(土) | 開始式・予選競技 |
| 12 日(日) | 決勝・表彰式 |